

最近の海外飛来性害虫の課題と防除対策への取り組み

国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構
植物防疫研究部門

さな だ さち よ
真 田 幸 代

はじめに

日本では古くから、中国大陸、台湾、フィリピンなどから吹く強い風（季節風など）に乗って、様々な害虫が飛来し、作物に被害をもたらしてきた。例えば、トビイロウンカは、冬にイネがなくなる日本では越冬できないが、毎年梅雨の時期に、中国大陸南部から、梅雨前線に向かって吹く暖かく湿った風（下層ジェット気流）に乗って九州地域を中心とした西日本に飛来する。その後、水田内で数世代増殖し、刈り取り間際のイネを吸汁して枯死させる「坪枯れ」の被害をもたらす。近年、トビイロウンカの発生は増加傾向にあり、2020年には九州地域だけでなく、中国、四国、近畿、東海地域でも「坪枯

れ」被害が発生し、各県から注意報、警報が発表された（図-1）。また、カンキツ類に甚大な被害をもたらすミカンコミバエ種群については、1986年に日本で根絶された後も、これまで沖縄県の本島や島嶼部を中心に海外から飛来した個体が誘殺されていたが、2015年以降は鹿児島県の島嶼部で、2021年には福岡、佐賀、長崎、熊本、鹿児島県といった九州本土で海外から飛来したと考えられるミカンミバエが誘殺された。ミカンコミバエ種群については、国内での蔓延を防ぐための緊急防除の対象病害虫に指定されており、誘殺があった場合には徹底した防除対策が実施されるため、国内での定着は阻止されているが、これまでほとんど誘殺がなかった九州本土においても今後は侵入警戒が必要となってくる。さら

1. 警報・注意報

警報 (11件) :

福岡, 佐賀, 熊本
大分, 愛媛,
山口, 広島, 岡山
兵庫, 京都, 愛知

注意報 (34件)

長崎, 宮崎, 鹿児島
鳥根, 鳥取
香川, 愛媛
奈良, 和歌山
静岡など

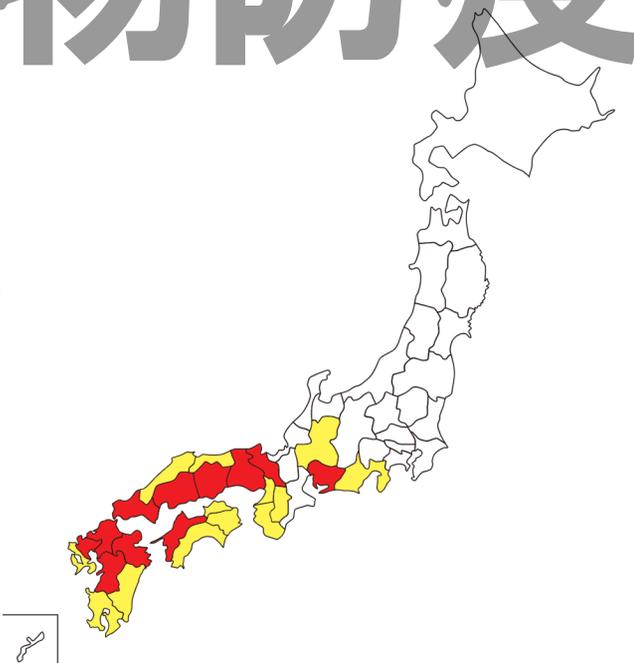


図-1 2020年に西日本で発令されたトビイロウンカ警報・注意報

Recent Issues for Migratory Insect-Pest Control in Japan. By
Sachiyo SANADA-MORIMURA

(キーワード: 海外飛来性, 薬剤抵抗性管理, イネウンカ類, ツマジロクサヨトウ, トマトキバガ, ミカンコミバエ)